

# 平成 26 年度 校内研究計画

研究主任 荒尾 敏雄

## 1 これまでの研究の成果と課題

### (1) 平成 21 年度から平成 23 年度まで

#### 《研究主題》

**個に応じた教科指導による基礎力の定着**

**～児童生徒それぞれの実態に配慮した複式授業の実践と取り組みを通して～**

**異文化理解を通し、国際社会に対応できる態度・能力の育成**

**～「わたしたちのカタール」の有効的な活用方法の模索と内容の拡充～**

ドーハ日本人学校が再開して以来、校内研究は「個に応じた教科指導による基礎力の定着」と「異文化理解を通し、国際社会に対応できる態度・能力の育成」を目指して実践を積み重ねてきた。

学力面では、小規模校・少人数学級（開校一年目スタート時点の児童生徒数は 8 名，二年目は 19 名，三年目は 28 名）の利点を生かし、児童生徒の基礎学力を向上させるために、個の実態に応じて細やかな学習指導を進めてきた。また、小学部 1・2 年生，3・4 年生，5・6 年生がすべて複式学級であったため、複式授業の指導案の作成や指導方法の工夫についても、研究を進めてきた。

異文化理解の面については、副教材として「わたしたちのカタール」を作成し、現地理解教育に役立てようとしてきた。

### (2) 平成 24 年度から平成 25 年度まで

#### 《研究主題》

**伝え合い、学び合い、自己の考えを再構築する児童生徒の育成**

**～話し合いの活性化を図るICTの活用～**

児童生徒数の増加（四年目は 29 名，五年目終了時には 40 名）に伴い、児童生徒個々の学力を正確に捉えることが課題となった。そこで、平成 24 年度より、小学部・中学部共に CRT 検査を実施し、まず国語，算数・数学の二教科の学力を調べることにした。その結果，たとえば国語では、「話す・聞く」領域の力が，課題であることが判明した。児童生徒の学習の様子を見ても，相手や場面に応じて分かりやすく伝える（表現）ことが苦手であり，相手の意見や考えを聞いて，自己の考えを深める（思考・判断）点に課題があることが分かった。

平成 24 年度からの校内研究では，各教科のねらいを明確にして，言語活動の充実を図ることを目標にした。そこで，先の「話す・聞く」領域の力を「話し合う力」として捉え直し，話し合いを活性化するための一手段として，ICT を研究実践の中に適宜取り入れることにした。

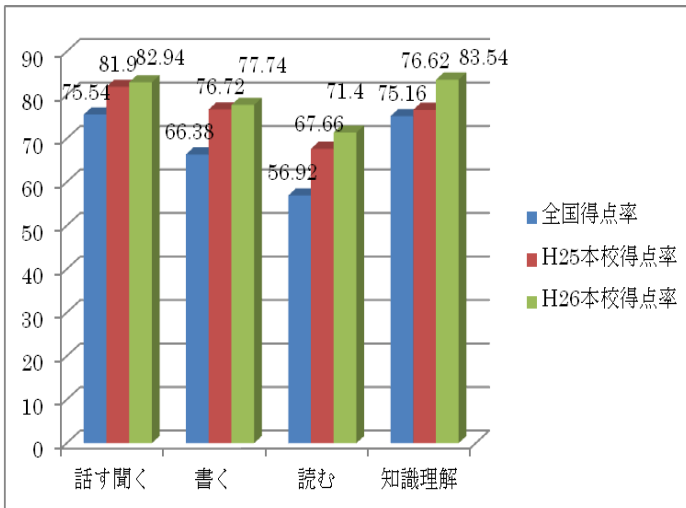
平成 25 年度が終わるまでに，大型テレビ 4 台，教育用タブレット PC（iPad）8 台を導入することができた（資料 1）。また，話し合う力を身に付けさせるために，各教室に「話形」を掲示し，話形をもとにして話し合いをするように指導してきた。

【資料1】

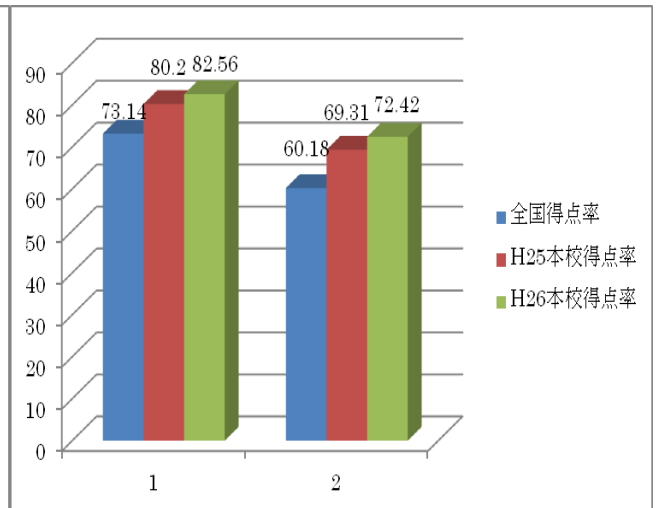


CRTの経年変化を捉えると、二年間の研究実践により、国語の「話す・聞く」領域の力は向上してきたことが分かる(資料2)。他の領域においても、学力が向上したことが判明した。また、資料3のグラフから分かるように、国語の知識・理解・技能(資料3の1)、思考・判断・表現(資料3の2)の力も上昇傾向にある。

【資料2】



【資料3】



2 今年度の研究主題と主題設定の理由

【平成26年度の研究主題】

**個の学びと集団の学びが響き合い、自己の考えを再構築し表現する児童生徒の育成  
～ICTを活用した学習指導、国際理解教育の実践～**

これまでの研究の成果と課題、かつ本校の児童生徒の実態を踏まえると、個に応じた学習指導を継続して行い、基礎・基本の力を確実に定着させる必要がある。また、話し合う力(表現)も身に付けさせ、自己の考え(思考・判断力)をさらに深めていく必要がある。

そこで、基礎・基本の力の定着を目指す場を「個の学び」の中で行い、話し合う力を身に付ける場を「集団の学び」の中で行うことにする。そして、「個の学び」と「集団の学び」を連関させ(響き合い)、たとえば、ペア学習、グループ学習などを適切に取り入れ、学びの質を深め

ることで、「自己の考えを再構築し表現する児童生徒の育成」を目指すことにする。

ICTについては、平成26年度第40回パナソニック教育財団の実践研究助成を受けることができた。この助成により、大型テレビ3台、ビデオカメラ、ブルーレイレコーダーを購入し、各教室に大型テレビを一台ずつ配置することができた（資料3）。

なお、パナソニック教育財団に提出した研究主題は「ICT活用によるイメージを表現する力の育成～和太鼓・ソーランを通して日本の伝統文化を学び、発信する実践の一例～」である。この研究も、校内研究の一部として位置付け実践していく。

【資料3 パナソニック教育財団のHPより】

**「第40回（平成26年度）実践研究助成」助成先決定**

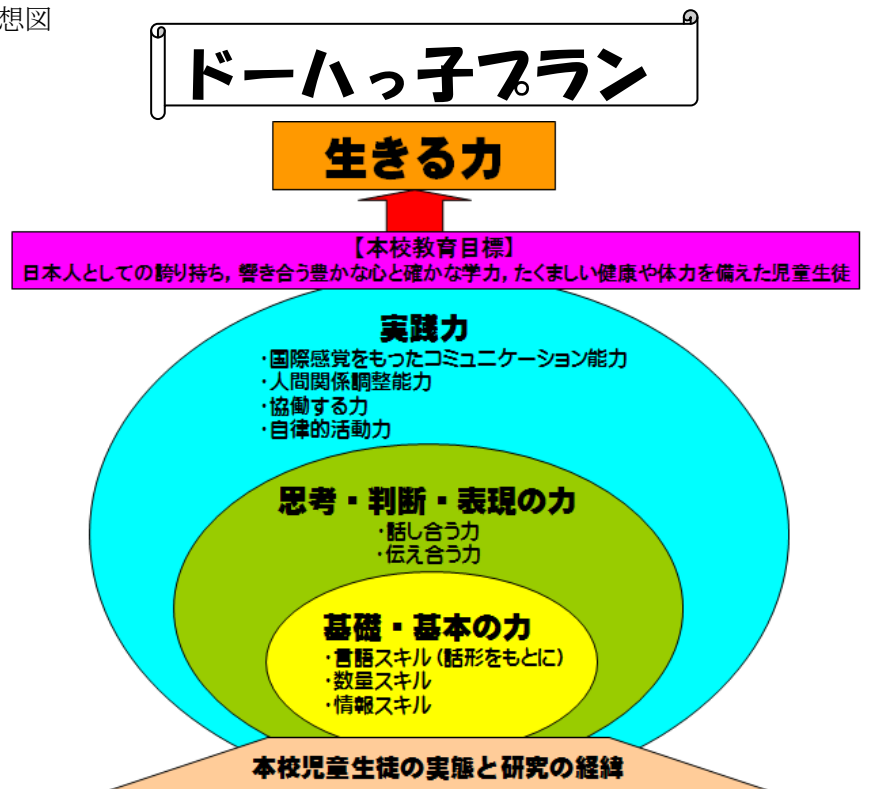
「第40回 実践研究助成」に453件のご応募を賜りました。  
厳正なる審査の結果、84件を助成いたします。

- ・ 一般（応募425件、助成80件）
- ・ 特別研究指定校（応募28件、助成4件）

海外	サンチャゴ日本人学校	ICTの活用による個に応じた授業づくり
海外	カタール・ドーハ日本人学校	ICT活用による「イメージを表現する力」の育成 ～和太鼓・ソーランを通して日本の伝統文化を学び、発信する実践の一例～

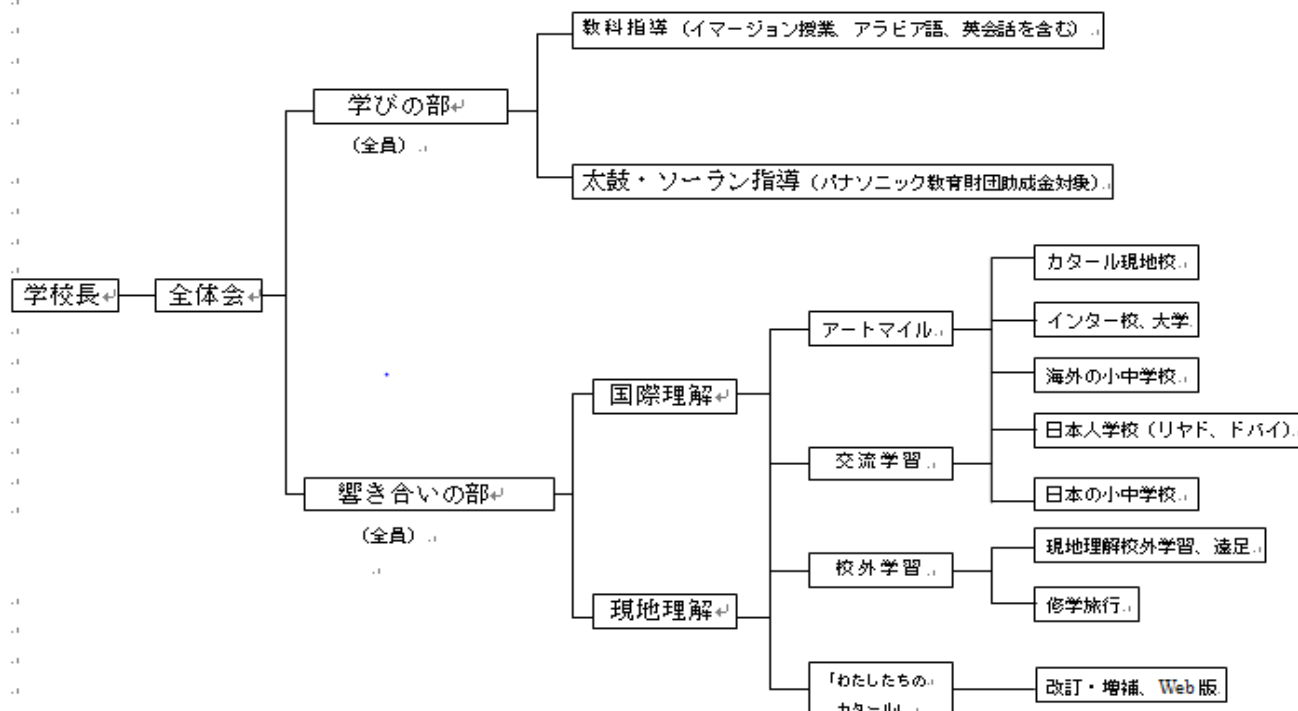
3 研究の方法と検証

(1) 研究構想図



- ・ 3つの力を分離・段階的に捉えず、重層的に捉えるため、3つの円を重ねて表示する。
- ・ H26/3/17 文科省「育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価のあり方に関する検討会」資料をもとに作成。

## (2) 研究組織図と内容



## (3) 研究の方法

### ① 学びの部において

#### ア CRTの分析

年度当初（4月下旬ころ）にCRTを実施する。平成26年度も、小学部は国語、算数、理科、社会の4教科、中学部は国語、数学、理科、社会、英語の5教科を実施する。その結果を考察し、個の実態、学級の実態に合わせて、学力の伸長を図る。

#### イ 単元研究

専門教科、得意な教科、研究をしてみたい教科など、教科を一つ選び、研究主題に沿った研究を行う。昨年度と同じように、一つの単元を通した単元構想を立て、ねらいを明確にし、身に付けさせたい力をおさえる。研究授業をするに当たって、単元構想に基づく単元計画を立てる。各自研究計画に沿って研究を進め、その中から一つの授業を年一回公開する。指導案の検討は全員で行う。研究授業には、全員が参観する。

#### ウ 研究協議会の実施

研究授業が終わった日か、単元がすべて終了した後に研究協議会を行う。全員が参加する。

### ② 響き合いの部において

#### ア 現地理解校外学習と「わたしたちのカタール」の活用

年二回開催予定の現地理解校外学習では、事前・事後学習を行う。その際、「わたしたちのカタール」を活用した授業を行う。

#### イ 「わたしたちのカタール」の改訂作業

古いデータを新しいデータに改訂する。PDF化して、学校HPにアップする。

#### ウ 間接的交流（Web交流）と直接的交流の実施（資料4）

- ・日本の小、中学校
- ・日本人学校（サウジアラビアのリヤド、UAEのドバイ）
- ・カタールの現地校

（Abdul Rahman bin Jassim Preparatory Independentschool for Boys）

- ・カタールのインターナショナルスクール

（International school of London）

- ・その他の学校（マレーシアの中学校）

エ アートマイルプロジェクトに参加（資料5）

We b 交流に関連して、アートマイルの活動に参加する。昨年度は、5・6年生複式学級、中学部が参加。一昨年度は、5・6年生複式学級が参加した。ドーハ日本人学校は、過去三年間、このプロジェクトに参加している。

### 【資料4】

#### （3）学び合い、交流の機会

##### WEB交流① 愛知県知多市立旭北小学校



##### WEB交流② リヤド日本人学校



##### WEB交流③ マレーシアの中学校



##### Web交流④ カタールの現地校



## 【資料5】

### 【アートマイルプロジェクトとは】

#### 1 ねらい

日本人として自国の伝統文化に誇りを持ち、グローバルな視野をもって自ら考え行動し、世界の人々と協働して世界の調和と平和に貢献する次世代を育てることを目指す。

#### 2 プロジェクトの概要

##### (1) 事業の名称

「2014 年度アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト」

( International Intercultural Mural Exchange )

##### (2) 事業の内容

事業は、ジャパンアートマイル (JAM) が開発した「アートマイル国際交流カリキュラムモデル」に添って実施する。

日本の児童生徒と海外の児童生徒が、オンラインフォーラムやテレビ会議などインターネットを活用して共通のテーマで協働学習を行う。協働学習の成果として壁画 (1.5m×3.6m の大型絵画) を共同で制作する。フォーラムで構図や制作分担を話し合い、キャンバスの半分ずつに絵を描いて壁画を完成させる。完成作品を相互に鑑賞して活動を振り返る。

[交流期間] 2014年9月～2015年3月

[実施対象] 全国の小学校・中学校・高等学校の児童生徒と海外校 (海外の国々は以下の通り)。  
アゼルバイジャン・アメリカ・アラブ首長国連邦・イギリス・イタリア・イラン・インド・インドネシア・ウガンダ・エジプト・ガーナ・カタール・カナダ・カザフスタン・カメルーン・キプロス・グアテマラ・ザンビア・シリア・スリランカ・韓国・台湾・ニュージーランド・パキスタン・パレスチナガザ・東エルサレム・フィジー・フィリピン・フランス・ベトナム・ポーランド・メキシコ・モロッコ・ヨルダン・ルワンダ・ロシア

##### (4) 実践の検証方法

###### ①次年度CRTの実施

CRTを継続して実施し、学力伸長を経年変化で捉える。

###### ②アンケート、テストなど

単元を行う前と後に、アンケートやテストを実施して、児童生徒の意識の変容や学力の定着度を図り、実践の検証材料とするのが好ましい。年度初めと年度末に、同様の検証を行ってもよい。

###### ③研究協議会の実施

研究協議の中で研究主題に基づいて、授業の中で講じられた手立てが有効であったかどうかを検証する。



(5) 研究授業の年間計画

学期	月	研究内容	
		学びの部	響き合いの部
1	4	上旬 研究計画の提案	交流に向けての準備
	5	上旬 CRT の実施 下旬 ICT 活用研修	
	6	中旬 ICT 活用研修	I S L との交流会
	7	上旬 CRT の結果分析	U A E ドバイ日本人学校との交流会
2	9	上旬 東京学芸大学の先生による模擬授業	オマーンの小学校との交流会 (予定)
	10	下旬 研究授業, 協議会 中旬 公開授業 公開研究授業発表会の準備	I S L との交流会
	11	指導案検討, 研究リーフレット	U A E ドバイ日本人学校との交流会
	12	作成など。 12/11 公開研究授業発表会	カタール現地校との交流会
3	1	下旬 研究授業, 協議会	日本の中学校との交流会 (予定)
	2	研究のまとめ・反省	オマーンの小学校との交流会 (予定)
	3	3/1 保護者会で説明	